

No. 1031

一世紀の同窓会

大銀座祭のパレードが華かに行きかう銀座。そんなにぎやかな銀座をちょっとはずれた裏通りに由緒ある小学校がある。明治11年の開校以来95周年を迎えた泰明小学校である。ちょうど銀座通りが柳並木の姿を整えたころモダンな赤レンガの校舎として誕生、そして大正の円形校舎は震災で焼かれ、現在面影を残す鉄筋コンクリートの校舎も戦災にあい、厳しい歳月に耐えて、今ツタが校舎をおおう。10月14日一世紀にわたる卒業生を集めて同窓会が開かれた。何十代目かにあたる校長先生が「泰明の名は常に学業に励み、知徳を磨き、悠然として天下第一等の人物を育てる学校という意味で、この名を決めた」とあいさつすれば、同窓会長は「泰明の卒業生には石碑までございます。北村透谷、島崎藤村はじめ、踊りの吾妻徳穂さん、河原崎国太郎さん、池田弥三郎さん、岡田嘉子さん……」と自慢の数々。いささか出席者の顔ぶれは寂しかったものの、気位だけは明治の意気を示した同窓会でありました。

『北方領土』に厚い壁

—日ソ首脳会談—

北海道、根室半島の目の前に浮ぶ島々、国後、択捉、歯舞、色丹、北方領土は長い間、日・ソ両国間の大きな懸案の一つであった。鳩山首相以来実に17年ぶり、現職首相としてソ連を訪問した田中首相は「完全返還が実現しない限り、日本の戦後は終わらない」と決意も固く、11月7日、モスクワ入りした。空港にはコスイギン首相、グロムイコ外相ら、ソ連側首脳陣が出迎え固い握手をかわした。翌8日からクレムリン宮殿で行なわれた日ソ首脳会談で、田中首相は北方領土の返還が世界平和と日ソ両国間の長期的善隣友交関係にとって不可欠であることを強調した。これに対し、ソ連側・ブレジネフ書記長は「今回の日ソ交渉に重要な意義を感じている」としながらも、「領土問題は解決済み」と領土問題については厚い壁を築き、現状変更はありえないと一歩も譲らない。結局、共同声明では「第二次大戦の時から未解決の諸問題を解決すべく」交渉を続けていくことが合意されただけだった。わが国固有の領土である北方領土が返還され、安全な操業ができるのはいつの日のことか——。